「ぽんたとかんた」（第１学年）

主　　題：よいと思うことはすすんで

内容項目：Ａ－(１）善悪の判断，自律，自由と責任

ね ら い：よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行なおうとする態度を育てる。

**○基本発問　　◎ 中心発問　　□問い返し**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 学習活動・発問と予想される子どもの反応 | 指導上の留意点・評価の場面 |
| 導  入 | １　友達から悪いことを誘われたら、自分ならどうするか考え、話し合う。  **〇友だちにいけないことをしようと誘われたとき、あなたはどう思いましたか。**  【予想されるこどもの反応】  ・おもしろそうだな。  ・みんながやっているから、やってみたい。  ・だめなことはやらない。  ・注意すると何か言われるかな。  ・先生に言おう。  ・注意しよう。 | ・子どもにとって魅力的だけれども行ってはいけない身近な場所の写真を見せ、自分ならどうするか考えられるようにすることで、本時の道徳的価値である「善悪の判断」について考えていこうとする意識をもたせる。  **問題意識をもつ** |
| 展  開 | ２　資料を読んで、話し合う。  **○一人になったぽんたは、どんなことをじっと考えたのでしょう。**  【行きたい】  （自ら行きたいという気持ち）  　・おもしろそうだな  　・友達だから行こう。  ・どうしようかな、行ってみたいな。  （他の人を意識している気持ち）  　・誰にもばれないから、行こうかな。  　・仲よしのぽんたに嫌われるから行こうかな。  【行かない】  （自ら行かないという気持ち）  　・危ないからやめよう。  ・嫌われても、行くのを止めよう。  （他の人を意識している気持ち）  ・家の人に怒られるからやめよう。  　・先生に怒られるからやめよう。  　・誰かに見つかるからやめよう。  【わからない】  　・どうしたらいいのかな。  　・行きたいけど、行けない。  　・どうしよう。  **◎ぽんたは、どうして「ぼくは行かない。」と言ったのでしょう。**  **【予想されるこどもの反応】**  ・行きたいけど、行ってはいけないところだから我慢する。  **□何で大きな声で言ってみたの？**  ・かんたがけがをしてしまうと大変だから。  ・かんたは怒るかもしれないけど、行ってはいけないのだから行かないって言いたかった。  ・やってはいけないと思ったから、やらないことが大事だと思ったから。  ・やらないことが大事だと言うことをかんたにも教えなくちゃと思ったから。  **□同じように自分がよいと思ったことを友達に言ったことがありますか？その時、どんな気持ちでしたか？**  ・いい気持ち。  ３　自分の心を見つめる。  **○二人でブランコに乗っている、ぽんたとかんたに手紙を書きましょう。**  【予想されるこどもの反応】  　・悪いことを我慢できて偉かったね。裏山に行かなくても楽しいね。  　・悪いことをしないで遊ぶと気持ちがいいね。私も危ないことをしたいときがあってもしないよ。  ・自分で考えてやめられてすごいね。悩んだけど、いけないことをしなくてよかった。  ・かんたに言えて勇気があるね。私もよいことは進んでしたいな。 | **多面的・多角的**  ・初めにペアで話し合い、自分の考えと相手の考えを比べ、考え方の違いに気付かせるようにする。  ・「行きたい」「行きたくない」「わからない」の、それぞれの考えを聞くことで、判断するときには迷いがあることに気付き、どうすることがよいのか、多面的・多角的に考えることができるようにする。  ・自分自身のことと重ね合わせて資料を読むことができるように、場面絵などを見せながら二人の思いを想像したり考えたりすることができるようにする。  ・裏山はとても魅力的であることや、ぽんたとかんたは大の仲よしで、一緒に遊ぶことが大好きであることをおさえる。  ・いけないことを断るときの気持ちや相手に自分の意見を伝えられたときの気持ちについて考えさせる。また、その行動の支えとなる、よいことを実現したいという心の動きについて気付かせる。  ・これまでを振り返り、自分がよいと思ったことを友達に言った経験を想起させる。 |
| 終  末 | ４　教師の説話を聞く。 | ・正しいことと悪いことに迷ったときの体験について話す。 |

・手紙を書きながら、正しいことができたときの気持ちを考えることを通して、自己の生き方について考えを深められるようにする。

**自己の生き方**

●評価の場面

ぽんたが「行かない」と決めて大きな声で言ったときの考えや気持ちを基にして、よいと思ったことをしたときの気持ちを考えられるようにする。

ぽんたの気持ちを基に、よいと思ったことを大きな声で言ったとき、どのような気持ちだったかについて考え、よいと思ったことをしたときの気持ちよさについて気付くことができているか見取る。

**自分との関わり**

・「ぼくは行かない。」と言った場面のぽんたの役割演技をさせ、その時のぽんたの考えや気持ちなどについての根拠を問い返しすることで、自分との関わりで考えられるようにする。